

## 「飯館を掘る」を出版 佐藤昌明さんが来庁

「飯館を掘る―天明の飢饉と福島原発」を出版した佐藤昌明さん(飯樋町出身)が来庁しました。佐藤さんは新聞記者。その手腕を生かして友人・知人取材し、出身者ならではの視点で村の被災を分析しています。また、歴史資料を紐解き、天明の飢饉で人口が激減した江戸時代の状況と、原発事故による被災状況との間に不思議な共通点を見出し、先人の復興に学ぼうとしています。2年がかりの取材で「歴史学の観点から全村避難を見つめた」という渾身の1冊です。



表紙のオビに書評を記す哲学者・高橋哲哉氏は高校時代の同級生。氏のインタビュー記事も掲載

## 開通前のトンネル内を歩く 八木沢トンネル見学会

村と南相馬市原町区を結ぶ県道原町川俣線(県道12号線)の八木沢トンネル(延長2345m)が完成し、3月1日、現地で見学会が開かれました。村からは、飯館中学校の生徒などが、バスに乗り現地へ。トンネル内の村境付近で、道路の役割やトンネルの仕組みについて、県の担当者から説明を聞きました。八木沢トンネルは、3月18日に開通。村側のトンネル入り口には、飯館中学校新3年生の細杉れいみさんが揮毫した銘板が取り付けられています。



バスでトンネルの中央部へ。トンネル内を歩いてゆっくり見学できるのは開通前ならではの体験

## バレーボールで全国大会へ 佐藤誠さんの活躍を激励

「第15回全国スポ少バレーボール交流大会」に出場する佐藤誠さん(福島市立瀬上小学校6年生)に、村が激励金を贈りました。佐藤さんは、避難先の福島市で、小学4年生から岡山スポ少バレーボール部に所属。現在は173cmの長身を生かし、レフトのアタッカーとして活躍しています。3月13日の激励金交付式に来庁した佐藤さんは、「練習で学んだことをしっかり出して優勝を目指したい」と抱負を述べました。小学校卒業後は、勧誘を受けた東京都の私立中学校へ進学します。



佐藤さん(右)に激励金を手渡す菅野村長。「避難先の努力の結果。全てを人生の糧に頑張してほしい」

## 農業・産業再生へ協定締結 東京大学大学院農学生命科学研究科

村は、3月5日、東京大学大学院農学生命科学研究科と、協定を締結しました。同研究科は、震災後これまでも、村の農業・畜産などの再生に向けた実証や技術開発に取り組んできましたが、課題解決に向け、さらに連携を深めるため、改めて協定を締結したものです。締結式は、村役場本庁で行われ、菅野村長と丹下健研究科長が協定書に署名を行いました。同大学の教員や学生・院生らが村内で活動したり、村民と協働・交流したりすることも、村の活性化につながると期待されます。



署名した協定書を手にする丹下研究科長(中央)、菅野村長(左から2人目)と列席した関係者

## 新しい駐在所を開所 南相馬警察署飯館駐在所

南相馬警察署飯館駐在所の開所式が、3月17日に行われました。式には松崎幸夫南相馬警察署長や村の関係者合わせて約50人が出席。テープカットなどを行って、開所を祝いました。

老朽化に伴う建て替え工事で、今年1月に完成した新しい駐在所は、トイレをバリアフリー化した他、授乳室・相談室などを新設しています。また、震災以降これまで、日中のみの駐在所となってきましたが、現在は、昼夜を問わず警察官が駐在所パトロール業務などを行っています。



交流センター「ふれ愛館」と消防飯館分署に隣接。来所者用の駐車場も駐車しやすくなりました

## 毎日をいきいき お手本です いいたて元気アップ・ポイント

3月7日、県青少年会館(福島市)の体育館で、「いいたて元気アップ・ポイント事業」の表彰式が行われました。これは、対象事業に参加するたびに付与されるポイントを集め50ポイントを獲得した方に、表彰状と記念品を贈呈する事業です。ポイントが加算されるのは、生涯学習課が主催する講座やイベントへの参加、図書貸出の利用、施設開放の利用、スポーツ交流会への参加など。いきいきと活動し積極的に交流する皆さんに敬意を表し、ますますのご活躍を応援するものです。



表彰は年に2回行っています。50ポイントを獲得した4人のうち3人が表彰式に参加しました